

スマイル タウン

2018

7日
号

第295号

ひの社会教育センターは、市民のみなさんの“やりたい”を実現し、「豊かなくらし」を応援する施設として、1969年に日野市と財団法人社会教育協会が協定書に基づいて設置しました。
今月もセンターで生まれるたくさんの学びの様子をお届けします。

受講生募集中!

受講生募集中!
次回は秋に開講予定です。
(担当・渡邊)

社会教育協会としては、現在のところ、主催講座をはじめ、青森県老人福祉協会・東京薬科大学・東京トリム体操連盟等から依頼をいただき、187人にPPK体操リーダーの認定をしています。講習についてのアンケートでは、「ハンドブックが写真付きでわかりやすい」「職員のスキルアップにも活用する」といった評価をいただいています。
また、『シルバー新報』や健康生活マガジン『けんいち』などメディアにも取り上げていただきました。
今後はハンドブックの体操の種類を増やす予定です。
そして、個人で受講できる講習や団体への受託講習も引き続き開催を予定しています。



東京薬科大学・薬剤師を目指す学生さんも、将来のために受講。

日野社会教育センターが30年間取り組んできた健康体操のノウハウをまとめた、テキスト本「PPK体操リーダーハンドブック」が完成し、注目を集めています。PPK体操は「いつでも・だれでも・どこでも」指導でき、さらに健康づくりと地域づくりを目指し作成しました。
専門家の監修のもと、ハンドブックには「無理のない」「より効果的な」体操を集めました。写真を見ながらテキストを読むだけです。写し取られるので、誰でも安心して体操リーダーができます。地域の自治会やサロンの中でのプログラムにおいて役に立ち、テキストがあればよいので近所の公園でも行えます。

PPK(ぴんぴんキラリ☆)体操
ハンドブックを見ながらできる体操。介護職員の方や地域自治会などのリーダーさんが現場ですぐ実践でき、おすすめです。



受講生ひとりひとりに、『指導ハンドブック』が渡されるので、指導にあたる時も安心です。



学生時代は夏も冬も、常連リーダー。
職員になってもリーダーネームは「わか」です!

なによりも「センターにしかできない」「人との繋がりを肌で感じてきました。教師を目指していた私でしたが、いつしか「ここで働きたい」という想いに変わり...。
とにかく私は、ひの社会教育センターで生まれる「繋がりがとても大好きです!」主に青少年活動が主務の私ですが、イベント等で会った際にはどうぞよろしくお願ひします!

昨年度、明星大学の教育学部を卒業し、今年度からこのひの社会教育センターに入職しました。
私がセンターに出会ったのは、学生一年目の時、大学内にあったボランティアリーダー募集のチラシを目にし、「子どもと関わるボランティアやってみるか。」という、気軽な思いで始めたのがきっかけでした。
振り返れば、一年生の時からセンターのボランティアリーダーとして関わり、たくさんの刺激を受けて今ここにいます。当初は受託先である、みなみだいら児童館ぶらねつとに、学校がない日は必ず通う日々を送っていました。それからというもの、「ボランティアリーダーとして行ける活動にはとことん参加しよう!」と思い、サマーキャンプやスキーキャンプはもちろんです、定例の森のようちえんや子ども会「ぽけっと」にも参加し続けてきました。活動を続けていく中で、「学校にはない」子どもとの関わり方や接し方を沢山の実践の場で学ばせてもらいました。
なによりも「センターにしかできない」「人との繋がりを肌で感じてきました。教師を目指していた私でしたが、いつしか「ここで働きたい」という想いに変わり...。
とにかく私は、ひの社会教育センターで生まれる「繋がりがとても大好きです!」主に青少年活動が主務の私ですが、イベント等で会った際にはどうぞよろしくお願ひします!



チャレンジ教室「鉄ぼうとび箱教室」
リーダーとしてサポート

職員リレー
コラム
日野社会教育センターの職員ってどんな人?
リレーコラムで自己紹介します。
今月は、4月から職員に仲間入りした
若泉将貴(わかいずみ まさき)です。

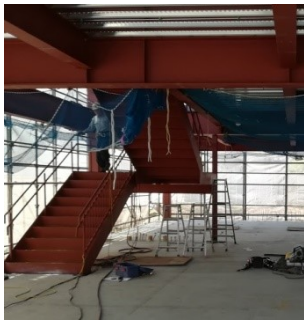


新館タイムズ

新館建設の「いま」をお届け



▲建物2階からのながめ
▼建物内の階段



現在、予定通りの進捗状況で、全工程の約3割まで出来上がっています。外観は、鉄骨に外壁のALCパネルがつき、建物全体のイメージができるようになりました。梅雨時期は天候により、進み具合が多少前後しますが、それでもほぼ順調に進んでいます。7月中には、内壁がつき館内の部屋割りもイメージできるようにするとのこと。どんな立ち上がりになっていく様子に期待がふくらみます。(副館長・阿部)



ひと

佐伯有香(さえきゆか)さん
日野生まれ・日野育ち
はり灸治療室のんびに(日野本町)院長

の始まり。子どもの便秘ケアやタッチケア講座などを開講していただき、ひの社会教育センターのイベントでの、小児はりの体験講座もたいへん好評でした。

東洋医学は、「なんとなく不調」という病氣と診断されない未病を鍼灸、薬膳などで治療し心地よい生活をめざすもので、治療は、

地元の開院した佐伯さんは、子どもが生まれ、自然豊かな日野は子育てしやすい街であることに改めて気づいたそうです。

佐伯さんが子育てでカフェモグモグへ飛び込みでセルフケアのチラシをもっていらしたことが、お付き合いの

「ひの社会教育センター50年を学ぶ座談会」

来年春、新館での事業スタート。2019年7月には、センターは開館50周年を迎えます。「今のセンターがなくなる前に顔を出したいな」と思ってくださいと思っている方々の、足を運ぶきっかけになるような会をしたいと思います。センターでの懐かしい話、これからのセンターへの期待など、座談会・親睦会で、語り合いませんか。(なつかしのメンバーにも声をかけています。中能・宮本・島崎がお待ちしております。)

皆さま、お誘いあわせのうえ、ぜひご参加ください!

2018年7月13日(金)座談会18時半・親睦会20時
会費:1,000円(ワドリツ・軽食つき)

参加:老若男女どなたでも!(申し込み不要です)

問い合わせ:担当 渡邊・栗澤 詳細はHPを!

【次回は9月に開催予定です。】

会話から「気付き」、そして体のケアへとつながります。タッチケアは体にふれマッサージをおこなうもので、人はふれられることで他者を感じ、自分を認識できるようになります。そこから絆が生まれ、信頼感・安心感につながります。心と体、それはすべて命にかかわる治療だと感じ、誰にも触れられず育った子どもが最悪は死に至る、という話を以前聞いたことを思い出しました。

今後の展開を聞くと、地域で高齢者子ども・子育て世代をつなげる活動をすでに始めていて、「地域には、まだまだ一人で子育てしている人がいて、行く場所を求めていると思う。居場所として寄り添っていききたいです。」と、わくわくしている様子の佐伯さん。地域に笑顔が増えていく風景が目に見えました。

▶学習のようす



利用する子ども達からは、勉強のコツが少しわかった、ほつともでの夕食がおいしい等、いろいろな感想が聞かれます。

6月末現在在籍13名、全員が自分の大切な居場所だと感じてくれていることがよく伝わってきます。

事業担当 阿部・若泉

中学生には高校進学をめざした学習支援、中学卒業後のOBには高校進学後の中退防止に関する支援等、子どもと保護者双方に對し必要なサポートを行う事業です。

場所になれるよう運営をしています。

中学生には高校進学をめざした学習支援、中学卒業後のOBには高校進学後の中退防止に関する支援等、子どもと保護者双方に對し必要なサポートを行う事業です。



子どもたちの居場所
学びあいの場・ほっとも

新館建設寄付者ご芳名 5/1~5/31 ご寄付いただいた方

※都合によりお載せしていない方もおられます。

多摩鍼灸整骨院 ひのりす会 大矢雪哉

ひのボールルームダンス協会 株式会社社紀の國屋

(順不同・敬称略)

現在の募金総額 5/31 現在
339名+募金箱

¥20,582,221-



おかげさまで
2,000万円!!

【お知らせ】日野社会教育センターでは、冷房機の故障に伴い、今季は代替機を使用することになっております。ご利用の皆様には、お部屋の移動や、冷房機能・運転音等、ご不便をおかけいたしますが、ご理解ご協力をお願いいたします。



賛助会へのご協力 ありがとうございます

★年会費(順不同・敬称略 5/1~5/31)

①個人会員 1口 1,000円

榎本 稔 3口 土方フミ子 3口 池上洋通 10口

②団体会員 1口 5,000円

いにしえ体操会 2口 日野混声合唱団 2口

日野アコーディオンサークル 2口

※日野社会教育センターへの支援と事業の普及、開かれた運営と経営の安定をはかるため皆様のご加入をお願いします。

スマイルタウン発行:(公財)社会教育協会日野社会教育センター

発行責任者:館長 島崎 成利 〒191-0062 東京都日野市多摩平 4-3

電話 042-582-3136 FAX 042-581-0647